

令和3年3月29日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 宮崎市橘通東1丁目9番10号
管理機関名 宮崎県教育委員会
代表者名 教育長 日隈 俊郎

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年4月10日（契約締結日）から令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 宮崎県立宮崎南高等学校
学校長名 児玉 康裕
類型 地域魅力化型

3 研究開発名

産学官連携による人の地域循環教育プログラムの研究開発

4 研究開発概要

本研究では、地域に根差す人材の育成として身につけさせたい6つのスキルを「再認識力」、「情報収集力」、「問題発見力」、「分析力」、「共感力」、「表現実行力」とし、総合的な探究（学習）の時間と各教科科目において育成する。

研究開発Ⅰ「地域の現状・魅力を知る地域力」の育成

地域のことを学ぶ「地域学Ⅰ～Ⅱ」において地域の魅力、地域資源を再認識し、「鵬イノベーションコンテスト」において地域の可能性や課題を考える力を養う教育プログラム

研究開発Ⅱ「地域資源の新しい価値を見出す力(イノベーション力)」の育成

地域資源の新しい価値や課題解決の方法を地域課題研究から探究し、地域創生の使命感を持たせる教育プログラム

研究開発Ⅲ「地域の価値を発信するための行動力・実践力」の育成

課題研究を通して得られた成果を、地元の企業・大学・行政に提案し、自己実現の場として捉える生徒を育てる研究プログラム

各教科における取組：授業において新学習指導要領の資質・能力の三つの柱（以下三つの柱）を本校が生徒に身につけさせたい6つのスキルをもとに育成する。

5 学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

所 属	役職 氏名
宮崎国際大学	地域連携センター長・大学部長 矢野 健二
宮崎産業経営大学	高大連携センター長・法学部教授 徳地 慎二
宮崎市青少年育成連合会	事務局長 青山 桂子
有限会社嶋末塗装店	代表取締役 嶋末 武

7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
宮崎市	市長 戸敷 正
宮崎県教育委員会	教育長 日隈 俊郎
宮崎市教育委員会	教育長 西田 幸一郎
宮崎大学	宮崎大学学長 池ノ上 克
宮崎空港ビル株式会社	代表取締役社長 高屋 靖夫
宮崎県男女共同参画センター	所長 山田 成美
宮崎市大淀地域自治会連絡協議会	議長 中川 雄一

8 カリキュラム開発専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	添田 佳伸	宮崎大学 教育学部教授	都度依頼し謝礼支払い
地域協働学習支援員	相田 慎一郎	企業組合ライオン堂 代表理事	都度依頼し来校

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会				○						○		
コンソーシアム会議				○					○			○
MSEC 連絡協議会	○		○				○			○		

(2) 実績の説明

①管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

- ・継続的な取組を行うため、加配（1名）を行った。
- ・地域課題解決のための地域・企業・高等教育機関との連携推進の取組を支援するための費用の補助をした。
- ・成果報告会（1年：鵬イノベーションコンテスト、2学：生徒課題研究発表会）では、当日の運営や生徒への指導助言等においてコンソーシアム組織員による全面的な支援を行った。
- ・地域協働事業をはじめとするSSH、SGH、WWLの研究開発を通じて、蓄積された探究型学習のノウハウを県内の高校へ普及すると同時にSDGsの実現を目指す意識の醸成のための組織「みやざきSDGs教育コンソーシアム（通称：MSEC）」を設置した。
- ・MSECでは4回の協議会を実施し、研修会も行った。

②事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・令和元年度からの県新規事業「県立学校を核としたまち・ひと・しごと創生推進事業」の取組と連動させて、継続できるよう計画した。

③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

- ・国立大学法人宮崎大学（令和元年6月5日 締結）
- ・宮崎市役所（令和元年7月16日 締結）
- ・道本食品株式会社（令和3年1月29日 締結）

10 研究開発の実績

(1) 実施日程

研究 開発	実施項目	実施日程											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
I	地域学Ⅰ		2回	3回	2回								
	地域学Ⅱ							1回					
	進路探究							5回					
	鵬イノベーションコンテスト				1回	1回	2回	4回	2回	3回	2回		
	鵬イノベーションコンテスト 研究発表会									1回			
	次年度課題研究に向けて											2回	
II	地域課題研究計画		4回	2回	1回							1回	1回
	計画発表				1回								
	地域課題研究				1回	1回	2回	3回					
	中間発表						1回						
	起業講座							1回					
	進路探究								2回				
	プレゼン資料作成								3回				
	研究発表会									1回			
III	成果発進					1回					1回		1回
	成果発信							4回	2回	3回			
その他活動	探究推進委員会	1回	1回	2回	1回	1回	1回	2回	2回	1回	1回	1回	1回
	地域課題研究職員研修	3回	4回			1回	1回	1回	1回				1回
	コンソーシアム企画運営委員会				1回					1回			1回
	運営指導委員会				1回						1回		

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

学年	研究開発	題目	実施内容
1	I	地域学Ⅰ	地域の魅力、現状をコンソーシアムの助言の下、本校教諭が指導した。
		地域学Ⅱ	宮崎の企業・行政の活躍を本校同窓会(鵬同窓会)を通じて紹介した。
		進路探究	生徒に進学先としてどのような学部学科があるか紹介した。
		鵬イノベーションコンテスト	各地域の企業、行政、団体からいただいたテーマを元に課題解決に取り組んだ。
		鵬イノベーションコンテスト研究発表会	各地域の企業、行政、団体からいただいたテーマを元に課題解決に取り組んだ内容を、各団体の代表者に向けて発表した。
		次年度に向けて	来年度実施する課題研究について事前学習を行う。
2	II	地域課題研究計画	地域課題研究の実施に向けて年間計画を立てた。
		計画発表	有識者に意見を求め、計画の軌道修正を行った。
		地域課題研究	計画発表を経て、研究開発を行った。
		中間発表	有識者に意見を求め、研究の軌道修正を行った。
		起業講座	宮崎大学が実施しているビジネスプランコンテストに参加(オンライン)して、新たなビジネスの視点を学んだ。
		進路探究	自分の進路先について、学習した。
		プレゼン資料作成	職員、生徒研修会を実施後、プレゼンテーション、ポスター制作等を行った。
		研究発表会	ポスターセッションによる研究成果の発表を行った。
3	III	成果発信	全県下で行うMSECフォーラムが新型コロナウイルスの感染状況悪化により、ビデオ配信のみとなったため、急遽、宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校とオンラインにてポスターセッションを実施した。当該校は、本校と同規模で中核都市に位置することから選定した。
		成果発信	課題研究で学んだことを自分たちの進路に活かした。
その他活動	探究推進委員会	地域魅力化型開発の総務として各教科、各部会に企画を提案し実施に向けてコンソーシアムとの協議、連携を図った。	
	地域課題研究職員研修	本校の探究活動についての全体会1回、学年会2回。地域学についての研修4回。鵬イノベーションコンテストの研修1回。DP評価についての研修2回。地域課題研究の研修(ポスター作製含む)2回。	
	コンソーシアム企画運営委員会	9 管理機関の取組・支援実績について参照	
	運営指導委員会	9 管理機関の取組・支援実績について参照	

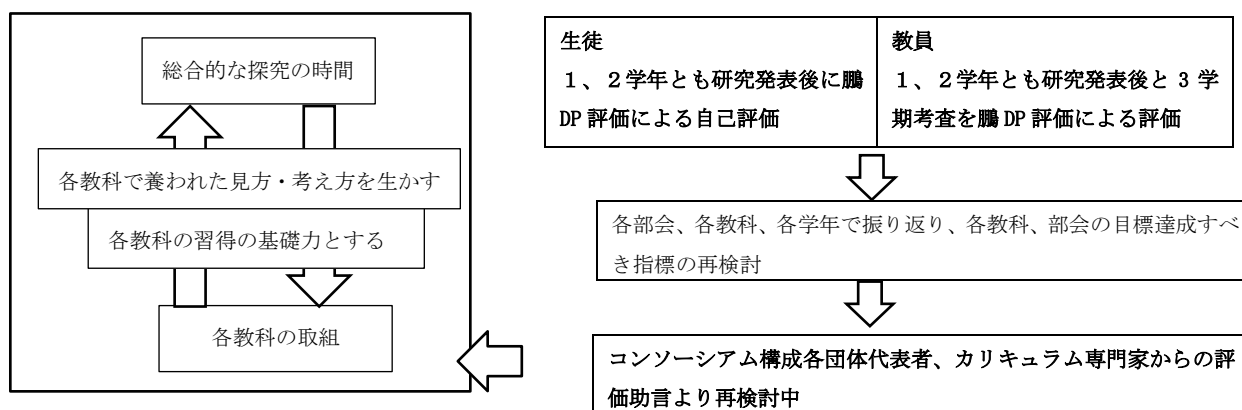
②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

学年・学科 位置付ける教科等	1 学年		2 学年	
	普通科	フロンティア科	普通科	フロンティア科
総合的な探究（学習）の時間	1	2	1	3
探究基礎情報	2	2	0	0

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ教科等横断的な学習とする取組について

- ・ 6つのスキルを基にした共通評価基準の改善 添付資料①参照
- ・ 共通評価基準を基にした各教科の指導に対する研修

④地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制



⑤学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

	地域探究推進委員（9人）	全職員
役割	①カリキュラムの開発の協議 ②地域に根差す人材育成としての企画を提案し各部会、各教科に実行を依頼 ③本研究の企画、改善をコンソーシアム構成各団体代表者と協議	①地域探究推進委員からの企画を部会、教科、学年で協議、実行可能案を作成し実行する。 ②地域探究推進部の提案についてそれぞれの視点から評価改善を提案
支援	・カリキュラム開発専門家より開発のアドバイス ・カリキュラム開発のために地域創生研究先進校の視察や有識者による助言をもらい全職員にノウハウを普及 ・加配が認められた場合、加配教員による業務補助 ・地域探究推進部増設のため各校務分掌を再編し、校内体制を整えた。	・カリキュラム開発専門家によるカリキュラム開発の研修の実施 ・それぞれの企画に対する成果を職員会議で検討し、多方面から生徒指導ができる体制を確立 ・放課後30分の指導時間を確保する。

⑥カリキュラム開発等専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

- ・カリキュラム開発等専門家
宮崎大学 教育学部教授 添田 佳伸 氏（都度依頼し謝礼支払い）
- ・地域協働学習実施支援員
企業組合ライオン堂 代表理事 相田 慎一郎 氏（都度依頼し来校）

- ⑦学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

進捗管理、計画・方法	実行時期
改善方策の執行管理システムとして、PDCAサイクルに基づく進捗管理の仕組みを位置づけ、持続的なサイクルを通じた成果の追究を行う。また、CHECK（評価）については、「本校が身に付けさせた6つのスキル」と研究開発中の教育指標を用い、各研究開発の題目において達成すべき目標を数値化することで達成の確認を行う。	探究推進委員会において週に1回実施した。また、学期に一度探究推進部において改善を検討した。

- ⑧カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

コンソーシアム会議において、カリキュラム開発について協議した。

- ⑨運営指導委員会等、取組みに対する指導助言等に関する専門家からの支援について

<運営指導委員会日程・内容>

活動日程	活動内容
令和2年 7月27日（第1回） 第1回 運営指導委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・実施内容の説明と本年度の取り組み計画について説明。 ・探究学習と学力向上の関係性についての協議、関係機関との連携をいかに活発化するか。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による課題研究計画の修正の検討。
令和3年 1月19日 第2回 運営指導委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究発表の評価方法であるDP評価についての改善が必要。評価の観点の改善や評価項目の簡素化、内容の周知など 審査員によるバラツキをどのように改善するかの検討。 昨年度と比べて、タブレット端末を利用した評価システム構築による集計時間の短縮に成功。（上記の件について検討予定）

<カリキュラム開発等専門家支援日程・内容>

活動日程	活動内容
令和2年 4月	教育委員会との打ち合わせ会 <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマネジメント（取り組み2年目）の研究内容の確認
令和2年 5月（第1回） カリキュラムマネジメント検討会議	今年度のカリキュラムマネジメントについての目標・計画・方法・内容等についての説明及び検討
令和2年 7月 実践研究1	・担当指導主事と大学教員による実践研究についての協議
令和2年10月（第2回） カリキュラム・マネジメント検討会議 （オンライン開催）	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告 ・研究成果の検証方法についての研究協議
令和2年10月（オンライン開催） 令和2年度資質・能力育成研究会 カリキュラム・マネジメント研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告 ・研究協議にて、本校の進捗状況の説明 ・講演会（岡山県青少年教育センター閑谷学校 所長 香山 真一 氏）
令和2年12月9日 実践研究2	第2学年生徒課題研究発表大会 <ul style="list-style-type: none"> ・2年課題研究発表会においてその成果から今後の課題について協議
令和3年1月（第3回） カリキュラム・マネジメント検討会議（オンライン開催）	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間の本研究における取組の総括 ・カリキュラム・マネジメントの手引きの作成について ・本事業の総括
令和3年3月 実践研究3	・来年度事業に向けての計画、立案

<地域協働学習実施支援員活動日程・活動内容>

活動日程	活動内容
令和2年 4月15日 第1回 推進委員会	キャリア教育に関する打合せ出席 ・本年度活動計画についての協議、鵬ドリカム講座の講師選定に関する協議、役割分担割り振り
令和2年 5月27日 第2回 推進委員会	鵬ドリカム講座の開催についての協議 ・開催するかどうか → 延期して実施 ・実施形態（基調講演は実施しない。） ・同窓会との連携
令和2年 7月 8日 第3回 推進委員会	・開講希望調査結果報告（29講座実施） ・同窓会と協議
令和2年 9月 9日 第4回 推進委員会	・実施場所、担当教員の振り分け ・講座受講生徒への指導
令和2年10月24日	令和2年度 鵬ドリカム講座実施

⑩類型毎の趣旨に応じた取組について 特になし

⑪成果の普及方法・実績について

- ・令和元年に学校 HP とは別に「宮崎南高等学校 地域連携協定事業」の HP を開設。
- ・鵬イノベーションコンテスト及び生徒課題研究発表大会の案内配布、他校への支援。
- ・宮崎商工会議所、i-club 主催による「令和2年度宮崎市地元とつながる人材育成支援事業イノベーション教育オンライン研修会」において鵬イノベーションコンテストの成果発表。
- ・実績について（地域との連携事業について記載）

活動日程	内容
令和2年6月～12月	生徒課題研究において、地域の食材を利用した「宮崎の食材を使った免疫力up!! 弁当」を考案。Aコープオランヴェル ニトリモール店において、販売を予定していたが、上記店舗が閉店したため中止となった。 生徒課題研究において、地域の銘菓を全国に広める取組を実践。「御菓子司 上野」様の協力により「プリチーまんじゅう」を考案。複合商業施設「宮交シティ」において2回販売。「マイプロジェクトアワード2020」にて発表。 生徒課題研究において、コロナ禍における地域を活性化させる企画として「Miyazaki High School Festival」を考案。宮崎市役所、宮崎県立宮崎海洋高校、宮崎県立本庄高校とともに企画立案し、12月25日に実施予定だったが、1月中旬に新型コロナウイルス感染症状況悪化に伴い中止が決定。オンライン会議も含め、40回以上の会議を持ち、計画した。
令和2年12月9日	2学年課題研究発表大会において地域課題に対する探究活動を実施
令和2年12月18日	鵬イノベーションコンテストにおいて9団体と地域テーマについて探究活動を実施 添付資料②参照

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 1学年「鵬イノベーションコンテスト」研究発表会後の鵬DP評価について

評価は4段階（S:4、A:3、B:2、C:1）で評価し、数値が高いほど高評価とする。

年度		再認識力	情報収集力	問題発見力	分析力	共感力	表現実行力
1	生徒(自己評価)	3.2	2.9	3.2	3.1	3.2	3.1
	審査員(外部評価)	2.1	2.0	2.1	2.0	2.0	2.0
2	生徒(自己評価)	3.0	3.0	3.1	3.1	3.0	3.1
	審査員(外部評価)	2.6	2.8	2.9	2.8	2.8	2.9

上記の結果より、すべての項目において外部評価が昨年度より上昇していた。指導案の

改善によるものと思われる。

(2) 2学年「課題研究発表大会」研究発表会後の鵬DP評価について

評価は4段階（S:4、A:3、B:2、C:1）で評価し、数値が高いほど高評価とする。

年度		再認識力	情報収集力	問題発見力	分析力	共感力	表現実行力
1	生徒(自己評価)	3.1	3.1	3.1	3.1	3.2	3.1
	審査員(外部評価)	2.3	2.5	2.3	2.3	2.5	2.4
2	生徒(自己評価)	現時点において休校のため未集計					
	審査員(外部評価)	2.5	2.6	2.6	2.4	2.5	2.5

上記の結果より、外部評価は昨年度よりやや上昇していたが、1学年の結果のような上昇は見られなかった。課題及び改善点を基に、次年度に改善を図らなければならない。

- <添付資料> ①「鵬DP評価表」
②「協力団体とテーマ一覧」

1.2 次年度以降の課題及び改善点

- ①コロナ禍の中で計画を実施するには、オンラインによる実施が必要と考える。本校は課題研究を実施する班が多く、オンラインでアドバイス等を拝受するに当たり、データ通信量が足りない状況であった。通信設備の改善が必要と考える。
- ②横断的思考力の定着。地域学Iにおいて、本県の魅力を7分野に分けて指導した。この7分野を横断的に思考し、イノベーションコンテストに臨ませたが、分野を超えた思考ができていない班が少ない。地域学Iと鵬イノベーションコンテストの間に横断的思考力を育成する取組が必要と考えるが、実施内容については検討中である。
- ③県内外の学校への普及の仕方について改善が必要。

【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	0985-26-7033
氏名	松田 太郎	FAX	0985-26-0721
職名	指導主事	e-mail	matsuda-taro@pref.miyazaki.lg.jp